

M A R K E T E Y E

マーケット・レポート

情報提供資料
2025年7月22日

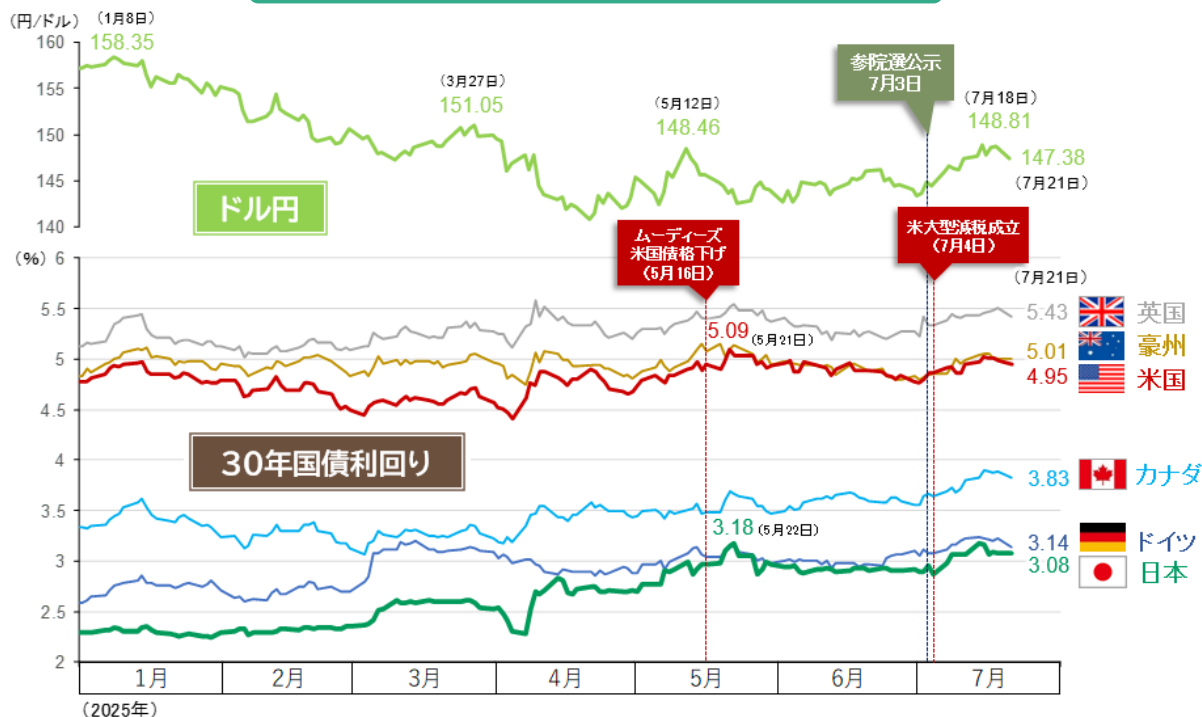
参院選後のマーケットと今後の見通しについて

与党過半数割れも予想の範囲内 長期国債・円は買い戻し

- 21日の海外市場では円高進行、主要国長期債利回りは低下、日経平均先物はもみ合い
- 与党47議席、過半数維持の50に届かずも事前予想の範囲内、長期金利上昇・円安は一服へ
- 政策運営は一段と厳しく、財政拡張リスクが意識され長期金利・ドル円は下げ渋り続く公算

- 1 7月21日の米国市場では、ドル円は147円38銭と18日の引値(148円81銭)に比べ1円43銭の円高・ドル安が進行、シカゴ日経平均先物は18日の東京市場終値3万9819円とほぼ変わらずの3万9790円で引けました。また、日本の長期債利回りと連動する傾向がある米30年国債利回りは前週末比4bp低下の4.95%で取引を終えました。
- 2 参院選後の市場の反応が総じて限定的な背景としては、1)与党3議席の過半数割れは事前予想の範囲内であること、2)日本10年国債利回りが7月15日時点で17年ぶりの水準まで上昇するなど、財政拡大リスクが既にある程度織り込まれていたこと、3)政治空白が生じる事態が当座回避される見通しであること、などが挙げられます。
- 3 但し、衆・参両院で少数与党となり、政策運営は厳しさを増します。自公政権の下で、消費税減税が具体化する可能性は低いとみられるものの、野党の協力を得る為に拡張的財政政策がとられることが意識され、長期金利・ドル円相場は下げ渋り状態が続くと予想されます。政局の流動化にも引き続き注意する必要がある、目先、石破首相が続投の大儀に掲げた「8月1日に期限を迎える米国との関税交渉」で具体的成果が得られるかが、焦点の一つになると考えられます。

ドル円相場と日本の国債利回り



【出所】ブルームバーグからの提供データ等に基づき、リそなアセットマネジメントが作成

※当資料の使用に際し、最終ページの＜当資料に関するご留意事項＞を必ずご覧ください。

作成：運用戦略部 投資戦略グループ チーフ・ストラテジスト 下出 衛



リそなアセットマネジメント

RESONA

〈当資料に関するご留意事項〉

■当資料は、リそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。■当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、リそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。■投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体としてお渡する「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。